

## 第4回塩竈市総合教育会議 議事録

- 1 日時 平成27年11月5日(木)  
開会 13時30分 閉会 15時30分
- 2 会場 塩竈市公民館本町分室
- 3 出席者 塩竈市長 佐藤 昭  
塩竈市教育委員会  
委員長 柴田 仁市郎  
委員長職務代行者 太田 忍  
委員 池野 暢子  
委員 山田 達磨  
教育長 高橋 睦磨  
(意見聴取者)  
塩竈市教育アドバイザー 田中 まゆみ  
塩竈市教育アドバイザー 伊藤 義昭  
梅の宮町内会 遠藤 一正  
学校評議員 佐々木 信行  
塩竈市スポーツ推進委員 藤崎 雅久  
塩竈神楽保存会 鈴木 朝博  
ビルド・フルーガス 高田 彩  
市民交流センター審議員 長谷川 ゆき  
(事務局)  
市民総務部政策課長 川村 淳  
教育部長 菅原 靖彦  
教育部教育総務課長 渡辺 常幸  
教育部学校教育課長 高橋 義孝  
教育部生涯学習課長 本田 幹枝  
教育部市民交流センター館長 伊東 英二  
教育部教育総務課係長 菊池 亮  
教育部教育総務課専門主査 鈴木 和賀子

- 4 協議事項 議題1 塩竈市教育大綱策定に向けて

### 5 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 柴田委員長あいさつ
- 出席者紹介

○協議事項

議題1 塩竈市教育大綱策定に向けて（事務局説明）

塩竈市の生涯学習の現状と課題について、市長、教育委員、意見聴取者と協議。

【主な意見】

〈長谷川氏〉 塩竈にはたくさんのボランティア団体等が多岐にわたり、とても素晴らしい活動をしている。ただ、残念なのは、横のつながりが少ないという点である。様々な団体をまとめて、より大きなうねりになるような組織づくりができれば、個人の力が集まってもっと輝けるのにと感じている。

自宅子どもたち向けに海辺の文庫という私立図書館をしているのだが、最初は子どもたちのためにと始めて始めた。今は、大人の方も図書館にやってくるし、近所の子どもたちにも読み聞かせをしたりしている。たくさんの方に利用される図書館になればと思って活動している。

〈藤崎氏〉 スポーツの場合は、スポーツ少年団からシニアまでいろいろなサークル、組団体があって体育協会を中心に連携を取っているが、横の連携というところでは同じように不足している。お互いにもっと協力して良いかたちを作るという面ではまだ足りていない。子どもの成長にスポーツは欠かせない。学校の体育と社会体育の関係では連携がこれからの課題かと思っている。

シニア層の活動は活発である。子どもたちに目を向けると、将来シニア層で健康を維持できるかどうかは子どものときの活動にかかっている。20歳までに体力的なものをどれくらいアップすることができるか、子どものうちからスポーツが好きだと思えるようにしないといけない。今は遊びの中心がゲームになっているが、体を動かすことが楽しいと思えるようにしないといけない。

〈佐々木氏〉 最近の子どもは、スポーツに対して肉体的、精神的に弱い、辛いことを避けたいという様子が多く見受けられる。少子化で部活動の選択肢が少なくなる等、諸問題もある。私が、体育指導の中で大切にしているのは、子どもたちがどれだけ塩竈に戻ってきたいと思えるかということである。市の全体として、子どもたちをどう育てていくかという柱があれば、塩竈から子どもたちも離れない。帰ってきたいと思える安心できるまちづくりを常に考えていきたい。

〈遠藤氏〉 町内会には、ダンベル体操、エアロビクス、ハンドベルの組織がある。平日の開催なので高齢者の参加が多い。北部地区に加盟する各町内会長さんにも機会を設けて様々な情報を共有している。町内会長さんたちが情報を認識していないと町内会員にも伝わらない。

〈伊藤アドバイザー〉 生涯学習というのは、「学ぶチャンスがある」「学習者が成果を活かす」「つなぐ」これらのかたちで意味が伝わっていく。そして、よりよい生活に高め、共有でき、社会が熟成されていくのではないと思う。反面、学ぶ方は学ぶ機会を求め学ぶが、関わっていない方もたくさんいる。すそ野を拓げるためには、学習者が学習したことを社会還元すべきであると思う。そのためには、サポートが必要である。学習の循環を効率的に浸透させていくことが望まれるのではないと思う。企画も市民によるものがあるとよい。結果的に、市民の方の意欲、認識が高まっていく。手がかかるほど、足を運ぶほど、人と人のつながりの度合いが深まり、広まっていくと思う。

〈田中アドバイザー〉 市教委のリーダーシップのもとに活動している団体が横の連携をとっていくのは非常に重要なことだと感じた。学校でもいろいろな運動への取組を行っているが、

学校教員の力不足を社会体育との連携で補うということは大切なことだと思う。

町内会には、リーダーがいる。いろいろな教室への参加を呼び掛け、強いリーダーシップをとって活動を推進している。

また、住民健診の時、保健師が待ち時間に、ストレッチの指導を行っている場面があった。このような小さな取組は大切である。

〈柴田委員長〉 塩竈の生涯学習活動は昔から非常に活発だったと聞いている。市民の方々は、伝統的に活発である活動を引き継いでいると感じている。

横の連携をとって、中身の濃い生涯学習環境を作っていくことが大切。子どもの時はいろんなスポーツを経験してみないと自分にどのスポーツが合うか分からない。いろいろなスポーツを経験できる機会があるとよい。

外部指導者の認定講習会制度は指導者の質を高めるため必要であると思う。

〈太田委員〉 以前、公民館で活動する団体で横のつながりをつくる動きがあったのだが、立ち消えになってしまった経過があった。コーラスは、基本は個人の生涯学習なのだが、自分で学んだものを社会に還元しなければならないということで様々な施設に赴いて、発表の機会を設けている。そのことにより、喜んでもらえるだけでなく、自分たちも力をもらい、とてもよい生涯学習の形になっている。

コーラスは市内のいくつかのコーラス団体が繋がって、塩竈音楽のつどいという活動が続いている。二市三町でも35年もの間コーラス団体が一堂に会する機会が続いている。塩竈市でもコーラスだけでなく、横のつながりとしてボランティアまつりみたいなものができるのではないかな。それをきっかけに、生涯学習をやりたくてもやれない、参加したくてもできなかったという方に、いろいろなものが見つかる一助になると思う。生涯学習は、中間層、青年層の抱き込みが課題であると思う。

〈鈴木氏〉 塩竈には、素晴らしい文化と歴史が多くある、塩竈に住んでいる皆さんは慣れてしまっていて気づかないのではないかな。風情や町並みは素晴らしい。塩竈神楽保存会は、昭和7年発足83年続いている。神楽保存会では、地域に根差す文化をどうやって継承・発展させているのかを大事に考えている。他の文化団体は、年配者が多いが、本会は20歳から上は82歳まで、34名である。6代目5代目の会長が一生懸命、小中学校に教えに行ったことが若い世代の後継者の育成につながっている。神楽の練習の場を作りながら、子どもたちに接している。中学生の思春期の時期は、先生も叱りにくいようなところもあるようである。その時期に、教育の補完的、精神的な役割を神楽の指導者が果たすことはあると思う。伝統文化では、靴脱ぎ、挨拶、上下関係が重要であり、情操教育にもなっている。子どもたちが、地域を大切にする思いを持てる手助けができればいいと考えている。

〈高田氏〉 杉村惇美術館は、昭和21年から実際に公民館として市民活動を行っていた建物である。塩竈市の有形文化財に指定されている施設であり、まちの財産で日常的に活動できるというのは大切なことではないかと思う。

杉村画伯は昭和21年～40年まで塩竈に住んでおり、特にその時代を塩竈時代とし研究をしながら画伯のまなざしを通してみつめていた塩竈の財産を市民に見せたいと考えている。今まで時代とともにいろいろな用途として使われた、まちの記憶を収蔵する美術館である。そのようなあり方はなかったのではないかな。

〈佐々木氏〉 貴重な資料や映像、写真を残してほしい。行政として、管理する核となる担当課が見当たらない。記録資料は、なくなってからでは手遅れ。図書館なりにライブラリーを残

すシステムがあった方がよい。市全体の記録のライブラリーは作ってほしい。貨物線の駅舎、太田屋旅館、昔の塩竈の姿に自分たちのルーツをみる。一枚の写真や絵を見た時に子どもたちの感情が非常に高まっていく。市民の方が個人で持っている塩竈の唯一の資料もあると思う、個人の力では保存が困難であるので、ぜひ行政で記録、保存し伝えてほしい。目に見えるかたちで、歴史を残していくライブラリーや、文化の港シオーモ、市民から集めた資料を図書館でアーカイブしていくのが収蔵方法としては優れている。

〈田中アドバイザー〉 素晴らしい文化の継承である塩竈神社のお神輿、流鏑馬等神社の文化継承が子どもの心の中に根差している。みなと祭のコンテストも大切にして欲しい。子どものころの経験は生きていくものである、心の文化の一翼を担っていると思う。ケーブルテレビで放映される千賀の浦大学は、塩竈市の歴史の伝承と文化の振興が大きな役割を果たしている。

〈伊藤アドバイザー〉 よしこの塩竈を踊る子どもたちはみんな一生懸命に踊っている。子どもたちが熱い思いで地域の行事に関わることは一生の思い出になって塩竈との強い結びつきを作る。継続してやっていただきたい。

〈池野委員〉 記憶というのは薄れてしまうので、映像・記録で残してほしい。塩竈神楽に小・中学生が参加していることはとても素晴らしい。よしこの塩竈でもコンテストに参加することで子どもたちの心にしおがまの記憶を残し、気持ちの中に熱いものが残ると思うので続けてほしい。

〈山田委員〉 女性よりも男性の方が生涯教育に一步を踏み出すのが少し難しいように思う。その中で「歴史」というのは男性でも一步踏み出しやすいと思う。子どもたちが塩竈を紹介するときに自信をもって話せると良いと思う。塩竈のことを、自信をもって話せる地域の知識、「浦戸学」のような「塩竈学」があって、子どもたちが自分たちで調べながら学び、郷土愛を育む機会があるとよいと思う。

〈高田氏〉 20代～40代の学びの場を増やしていきたいと考えている。先日、木村先生を招きビルドスペースで「湾の役割を知る」ということでワークショップを開催した。塩竈を語るために、界隈の多賀城、石巻等、自分たちの街だけではなく、周囲の街を知るということも大切。歴史を学び、現代でネットワークを創る時に関係性を理解し、まちの魅力や現場をつくっていくのもこの世代だと思う。このまちの良さを伝えるためのなにかをエネルギーのある世代が還元すべきである。レクチャーではなく座談形式で行ったり、カフェスペースを使ったり、中間層の知りたいことを知る身近な学びの場づくりを検討してほしい。

〈藤崎氏〉 小学生にもっと気軽にスポーツをできる環境を作ってあげないといけない。文部科学省でわくわくチャレンジ広場というのを提案している。活動場所はそれぞれの小学校、開催日時は地域の状況に応じて、参加対象は当該小学校に通う子どもたちである。活動内容は各種スポーツ・文化・芸術。指導者は、地域の方々が児童の指導サポーターになってもらい、子どもたちの見守りや指導を行う。これは学童保育と違って子どもを預けるのではなく子どもが安全に遊ぶ場を提供する、という取組。地域が主体となって取り組むことによりスポーツだけではなく、いろいろな面で子どもたちに影響を与えるのではないかと。

〈藤崎氏〉 葛飾区では、下校時間になって一度帰ってからまた来るのではなく、そのまま学校に残って遊び時間になったら帰る、というかたちを取っている。

最初の取り掛かりは土、日でも休みの日だけでも良い。皆さんに理解されれば、平日も出来るようになる。スポーツだけではなく、歌でも絵でも何でもいろんなことを出来る環境を

作ってあげられたら一番即効性もあるし、地域も活性化する。

教育委員会がメインになるというより、運営委員会を立ち上げ、PTA、民生委員、スポーツ団体、町内会等で運営委員会をつくり、運営していく等が考えられる。

クラブチーム等に通うとなると親に負担がかかり、ハードルが高くなる。子どもたちが自由に好きなことが出来なくなる状況が多い。

〈太田委員〉 枠組みを作ってあげないと、子どもたちも遊べない時代である。

〈長谷川氏〉 アーカイブを市の組織として作ってほしい。伝えていく資料を、責任を持って作っていただきたい。そういう意味での図書館のパブリック性は保ってほしい。

〈佐々木氏〉 子どもたちには感情豊かになるためにスポーツ以外の事もたくさん取り組むように話している。スポーツと文化、絵画や音楽等、横のつながりが個人の力ではなかなか交流できない。そこはやはり行政や子どもたちに関わっている教育委員会に強い意志を持ってリーダーシップを取ってもらいたい。

学校の先生たちは塩竈で生まれて塩竈でずっと先生をするわけではないので、塩竈の地域に思い入れのない先生もいる。そういう気持ちで子どもに接して良いのか疑問に思う。やはりそこは管轄の教育長のきちんとしたリーダーシップがあったうえで、子どもたちを育てていかないといけないと思う。大人にも地域に誇りをもつ教育も必要。教育に携わる者として郷土愛を育む教育を頑張ってもらいたい。

〈柴田委員長〉 塩竈独自の技術を身につけるようなものがあったとしても良い。また、市民が一致協力して、教育基金を立ち上げて優秀な子どもたちの支援をしてあげるといようなことも考えられる。そういう人材が全国、世界に羽ばたくことによってまた塩竈の知名度アップにもつながるのではないかな。

〈太田委員〉 美術館の展覧会を見てきたが、見ただけで心が優しくなった。心の教育が重要。何かに触れて優しい気持ちになったり、温かい気持ちになったりする目に見えない教育というものが大切だとつくづく思った。大人が塩竈を愛さなければ、子どもが塩竈を愛せるか。大人も塩竈の良さをしっかり学んで子どもに伝える。横のつながりやリーダーシップを持ち若い人をたくさん育て、心の教育につなげていきたい。

〈山田委員〉 生涯学習とは楽しいだけではなくて、学びを通して自分が人の役に立っているという思いがあると生きがいを感じ本当の喜びになる。今までなかなか一步を踏み出せなかった方々にもすそ野を広げることで一步を踏み出してもらおう。いろんな世代の集まりになりより有意義なものになる。学校を地域の人が利用できる場にできたらいいと思う。

〈田中アドバイザー〉 大学との連携をした交流活動の取り組み、みなと祭りのよしこの塩竈や合唱等の交流の場を通して塩釜高校を巻き込む取り組みが出来たら良い。

〈伊藤アドバイザー〉 理屈抜きでみんなと関わり合えるのがスポーツではないか。生涯学習と生涯スポーツを含めて生活の一部、生きる喜び、まちづくり、塩竈を愛する気持ちにつながる。